

# 小学校 第4学年 国語科 学習指導案

日 時 平成 29 年〇月〇日第〇校時  
対 象 第4 学年〇組 〇名  
学校名 〇〇〇〇小学校  
授業者 〇〇〇〇

## 1 教材名 「野原に集まれ」

## 2 単元の目標

「のはらうた」の詩を参考に、身近な自然や生き物を観察して、自分が作りたい詩について考え、書いた詩をより良い表現に書き直し、書き方の巧みさなどについて意見を述べ合うことができる。

## 3 単元の評価規準

ア 国語への 関心・意欲・態度	イ 書く能力	ウ 言語についての 知識・理解・技能
①身近なことやこれまでの経験を基に、詩に書きたいことを決め、自分の思いを膨らませて書こうとしている。	①身近な自然の中から自分の思いに合った生き物などを詩の題材として選んでいる。 ②自分の思いを表現するために経験を選んで、書きたい詩の題材について想像を広げている。 ③自分の思いを表現するために想像した作者になりきって詩を書いている。 ④自分の思いが伝わるように、よりよい表現に書き直している。 ⑤友達の詩を読み、書き方の巧みさについて意見を述べ合っている。	①思ったことや考えたことを詩に書き表している。

## 4 指導観

### (1) 単元観

本単元では、身近な生き物や自然物になりきって詩を書く。これは小学校学習指導要領国語における第3学年及び第4学年の言語活動例「ア 身近なこと，想像したことなどを基に，詩をつくったり，物語を書いたりすること。」に当たる。また、小学校学習指導要領解説国語編には「詩は、凝縮した表現であること，普通の文章と違った改行形式や連による構成になっていることといった特徴をもっている。(中略) 中学年では，このような特徴を必ずしも十分満たさなくとも，児童の思いを大切にしながら創造的な表現をすることの楽しさを実感させることが大切である。」と記載されている。児童に詩の特徴に気付かせながら、自分の思いを大切に、創造的な表現をする楽しさを実感させていく。

直前の単元「詩を楽しもう」で、工藤直子が野原の生き物や植物などになりきって書いた詩「のはらうた」を児童は読んでいる。工藤直子の作品を本単元でも取り上げ、読むことの指導を関連付け、詩を書くことに対する興味・関心を高め、創造的な表現をする楽しさを味わわせていきたい。

### (2) 教材観

「のはらうた」を読み、詩の楽しさを前単元で味わわせ、自分も同じように想像を広げて、何かになりきって面白い詩を書いてみたいという意欲を高める。児童が身近なものになりきって、その視線で辺りを見たり、言葉を発したり、気持ちを語ったりして、詩にしていきたい。そこで、想像を広げ詩を書いてみたいという気持ちを高めるため、校庭や学校の周りなどへ行って、なりきってみたいものを実際に観察したり、見えているものや感じていることを想像したりする活動を2時間確保する。活動中に、見たもの、触れたもの、嗅いだもの、聞いたもの、感じたことなどについて語り合っていく。そのときにメモした言葉を大事にしながら、第3時では、想像した作者について名前などの細かい設定を考え、イメージを豊かに、確かにしていく。本時で、詩を書く際には技法にとらわれず、自分の思いや考え、想像したイメージを大切にしながら記述させていきたい。

書き上げた詩は1冊の詩集としてまとめ、学級の児童全員で読み合い、感想を交流させたい。

## 5 年間指導計画における位置付け（書くこと）

時期	教材名	身に付けさせたい力
4月	「春の風景」	春の風景に興味をもち、それに関わる語句を増やすことができる。
6月	「新聞を作ろう」	新聞の特徴と作り方を知り、記事にすることを決めて、伝えたいことが明確になるように文章を書くことができる。
7月	「夏の風景」	夏の風景に興味をもち、夏の言葉を使って作った詩を読み合い、書き表し方のよさなどを交流することができる。
7月	「自分の考えを伝えるには」	段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように段落相互の関係などに注意して文章を書くことができる。

9月	「詩を書こう いなぎの子」(特設)	身近なことから題材を決め、詩に表すことができる。
10月	「秋の風景」	秋の風景に興味をもち、秋の言葉を使って作った俳句を読み合い、書き表し方のよさなどを交流することができる。
11月	『クラブ活動リーフレット』を作ろう	書こうとするものの中心を明確にして、写真と文章を対応させながら、段落相互の関係に注意して文章を書くことができる。
1月	「冬の風景」	冬の風景に興味をもち、冬言葉を使って作った俳句を読み合い、よさなどを交流することができる。
2月	「わたしの研究レポート」	書くことを決めて必要な事柄を調べ、調べて分かったことを明確にして文章を書くことができる。
2月	わかばうた詩集を作ろう「野原に集まれ」	身近なことやこれまでの経験を基に、想像を広げて詩を書くことができる。
3月	「十年後のわたしへ」	目的に合った内容を考えて、手紙を書くことができる。

## 6 単元の指導計画と評価計画(5時間扱い)

時	学習目標	学習活動	評価規準(評価方法)
第1時 計画	学習計画等を立て、単元の見通しをもつ。	1 「のはらうた」のように、何かになりきって詩を書くための学習計画を立てる。 2 なりきってみたいものを考え、想像を膨らませる場所を考える。	ア-① (ワークシート)
第2時 取材	〇〇〇小学校や身近にある自然や生き物や植物になりきって観察しながら想像し、言葉を取材する。	1 校庭や学校の周りなどへ行き、物や自然物や生き物や植物の気持ちを想像する。 2 想像したことを取材カードに書き込む。	イ-① (取材カードの記述)
第3時 構想	何になりきって詩を書くのか決め、「詩の作者」の想像を広げ、自己紹介する。	1 前時に想像したことを、取材カードを基に話し合う。 2 詩を書く時になりきるものを決める。 3 「詩の作者」について想像を広げる。	イ-② (ワークシート)

		4 考えた「詩の作者」になりきり、自己紹介をワークシートに書く。	
第4時 記述 推敲 【本時】	作者になりきって想像したことを、取材メモをもとに詩を書き、交流し自分の詩を推敲することができる。	1 詩を書く時のこれまでの自分について振り返る。 2 考えた作者になりきって詩を書く。 3 書いた詩を交流する。 4 自分の詩を見直し推敲する。	イ - ③ (書いた詩) イ - ④ (書いた詩)
第5時 交流	書いた詩を読み合い、表現のよさやおもしろさについて感想を交流する。	1 友達同士で書いた詩を発表し合う。 2 感想を「感想カード」に書き、プレゼントする。	イ - ⑤ (感想カード) ウ - ① (書いた詩)

## 7 指導に当たって

本単元では以下の指導の工夫を行う。

### (1) 主体的に学習に取り組ませるために

#### ○読むことと関連付ける

「のはらうた」の楽しさを前単元で味わわせ、詩を書きたいという意欲を高める。また、書きたい題材を自分で決められない児童には、「のはらうた」に出てくるものの中から続きを書きたいものを選ばせ、想像を広げさせる。

#### ○想像する時間を確保する

課題設定から構想までの時間を3時間確保することにより、詩に書き表したい思いを膨らませる。

#### ○身近なものから想像を広げる

身近なもの、生き物、植物、空や雲や太陽などの自然などに触れ、「声かけ」「語らせ」「つぶやき」「問い、答え」などしながら感性を生かして観察し、生まれた言葉を取材カードに書く。

### (2) 自分の考えをもたせ、表現するために

#### ○詩に親しませる

朝学習や家庭学習等の時間を使い、詩を音読したり、好きな詩を書いたりする活動に取り組ませ、詩特有の表現やリズムに親しませ、楽しさを味わわせる。

#### ○友達に話すことによりイメージを確かめ豊かなものにする

第3時では、考えた作者になりきって自己紹介する活動を取り入れ、友達からの質問を受けるようにし、想像を広げられるようにする。

#### ○詩の書き方を「子どもたちの言葉」でまとめる

本時では、今まで詩をどうやって書いてきたのか、「子どもたちの言葉」で振り返ることにより、

詩を書くことに戸惑いを感じている児童が取り組みやすくなるようにしたい。逆に、戸惑いながらも表出された言葉を価値付けていきたい。

(3) 評価を指導に生かすために

○自己評価を位置付ける

毎時間、児童に自身で自己評価をすることにより、できるようになったことを明確にし達成感を抱かせ、詩を書いて表現することへの自信につなげたい。

○個に応じた指導を行う

座席表型の評価補助簿を用意し、前時までの学習状況に対して一人一人の課題を把握した上で、適切に支援を行うことにより、全員が課題を達成できるようにする。

**8 本時（全5時間中の4時間目）**

(1) 本時の目標

作者になりきって想像したことを、取材メモを基に詩を書き、交流し自分の詩を推敲することができる。

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入	1 今まで詩を書いた時のことを想起する。  2 本時の学習の流れを確認する。	・児童の言葉で振り返ることにより、詩を書くことに対して苦手意識を抱いている児童が取り組みやすくなるようにしたい。	
展開①	3 考えた作者になりきって詩を書く。	・そのものになりきれないように、そのものになりきって、隣と話をさせたり、体を動かしたりさせる。  ・書こうと思っていることが定まらない児童には、前時の取材カードの「思っていること」の欄に着目させ、架空の作者がどんなときにそう思ったのかを想像させる。  ・書き進められない児童には、教科書の「のはらうた」を見せ、まね	イ-③ (書いた詩)

		してもよいことを伝える。	
展開②	<p>4 書いた詩をグループで読み合って交流する。</p> <p>・友達が書いた詩からどのような情景が想像できるか。</p> <p>5 書いた詩を全体で交流する。</p> <p>7 自己評価をする。</p>	<p>・書き終わっていない児童は、グループの友達に困っていることを相談してよいと助言する。</p> <p>・話し合いの交流が終わったグループから、自分の作品について振り返る。</p> <p>・グループで交流したときに、自分がよいと思った友達の作品を紹介させる。</p> <p>・どんなところがよいのか表現について学び合う。</p> <p>・評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なりきって書いているか</li> <li>・工夫して書いているか。</li> <li>繰り返し</li> <li>体言止め</li> <li>対</li> <li>言い切り</li> <li>リズム</li> <li>比喩</li> </ul>	イ - ④ (書いた詩)
展開③	8 自分の詩を見直し、推敲する。	・グループや全体で交流した際に友達からの言われたことや、友達の詩についていいと思ったところを参考にさせる。	

まとめ	9 振り返りを書く。		
-----	------------	--	--

(3) 板書計画

わかばうた詩集を作ろう

考えた作者になりきって  
詩を書こう。

○みんなの詩の書き方

- ・だれかに話すように
- ・頭の中に出てきた言葉をそのまま
- ・リズムよく

**詩を書く**

**作品を読み合う**

視点 どのような情景が想像できたか

**友達の作品のいいところ**

- ・雲が楽しそうにしている
- ・リズムがいい
- ・ストーリーが頭の中に思いうかんだ。
- ・動いている様子が目にうかんだ

**自分の詩を見直す**

自分の詩のいいところ

友達の詩のいいところ